



# JEG ニュースレター 124号

www.jegch.jimdo.com

2012年3月28日発行

## 小さな証

名前のように優しく、また優れた寿司職人だった一人きりの兄、長い苦しい闘病生活の末に逝った兄は今どこに？



## リーダーズセミナー

3月10日11日、スイスJEGの役員と世話人が集まってリーダーズセミナーを持ちました。



## ベルンで家庭集会再開

この春、ベルンで、ブルッカー・テレス元宣教師のイニシアチブによって家庭集会が再開されました。



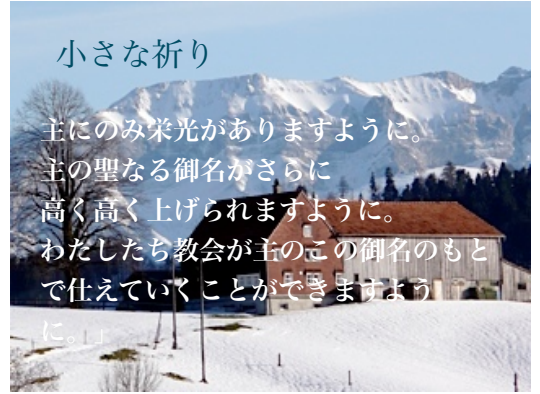
## 月に2回の礼拝を！

シュトゥットガルト日本語教会では月2度の礼拝を持つようになりました。増谷兄のレポートをお読み下さい。



## 小さな祈り

主のみ栄光がありませんように。  
主の聖なる御名がさらに高く高く上げられますように。  
わたしたち教会が主のこの御名のもとで仕えていくことができますように。



あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。  
第1コリント 12：27

## 第2回 リーダーズセミナーを開催



教会はイエス様をかしらとする“キリストのからだ”。おのおのが主から与えられた賜物を用い、ともに心をつにし主の道具として、その働きを担っていくことを、イエスさまは私たちに願っておられます。スイス教会を愛して多くの責任を負い、その働きを担う役員と世話人が、この春も一同に集まり、これからのスイスJEGについて、3月10日11日と2日間に渡って語り合いました。



## ちいさな証

一人きりの兄を失くして、  
松林幸二郎

スイス日本語福音キリスト教会会員



3歳上のたった一人きりの私の兄が3月1日早朝に他界いたしました。ひどい苦痛を伴う人工透析を行う前の、しかし安らかに眠るような表情だったのですが、長い糖尿病との闘病生活の末、体がぼろぼろになって迎えた死でした。一人きりの兄を失くすのは言い様もなく寂しい事です。母より先に逝ってしまった兄の無念

と悔しさを思うたびに涙が出てきますが、同時に、兄は筆舌に尽くしがたい苦しみと堪え難い痛みから解放されました。

日が暮れるまで外で遊んでいた少年時代の兄は、祖父のそばで一日中でも絵を描いて一人で遊んでいた私とは、性格もまったく異なり、中学を出て寿司職人となった兄と、全寮制高校生活から京都での勤労大学生を終えるやいなや海外放浪の旅に出てしまった私とは共有する思い出もほとんどありませんでした。50数カ国を廻る放浪の旅も3年が過ぎたころ、故郷からは寿司屋が行き詰まって多額の借金を抱えた兄夫婦と母の苦境が伝えられてきました。

帰国すれば何が待っているのかも知らず、片道切符でソ連を経由し、ヨーロッパ、北南米に渡った私は、3年半ぶりに故郷の土を踏みました。兄は、寿司職人として一流ではあるけれど、商売人としては不適格で、優しい性格から友人らの保証人となっていたため、他人の借金さえ背負いきれないほど負っていました。私は、銀行からやくざまがいの高利貸しまで頭を下げて廻りながら、借金の返済をしていくといった、夢にも考えた事なかった苦しい日々でしたが、不思議に兄を恨むことがなかったのは、芽生え始めていた幼い信仰と、やはり、イエス様の支えがあったからだと思っています。

その3年に渡る借金生活の苦闘がほぼ一段落すると、兄家族は東京に新生活を求め引っ越しをし、私は恋人だったスイス人女性と結婚するために渡欧いたしました。

それから、27年もの歳月が流れ、なんと私の住むスイスで兄と再会し、一年足らずという短い期間でしたが、同じスイスという国で生活し、生まれて初めて心を通わすことになるのは夢想だにできなかったことでした。



我が家で寿司を握る兄

ベルン市で日本料理店を営む田中伸二兄がグリーンデルワルドに出す支店を兄夫婦に任せたいという申し出を、あの臆病ですらある兄が受諾したことも主の導きであったと信じています。兄は田中兄の期待には添えなかったという忸怩(じくじ)した思いはあるけれ

ど、田中兄のオファーがなかったなら、私たちの生涯に、兄弟としての心通う交流もなかったであろう事を思うと、田中兄と、その背後で働いて機会をお与え下さった主にはどれほど感謝してもしきれないと大きな恩を感じています。



ごく内輪だけの告別式には私は帰国しませんでした。母から、兄の49日には帰ってきて欲しいと乞われました。仏教の法事にできるのは、キリスト者となった私には、当然、大きな抵抗がありますが、田辺先生から「お母さんを慰めるために帰っておやりなさい、何事も愛を優先しなさい、法事にどう振る舞うかは主が知恵をくださるから」といわれ帰国を決めました。4月は休暇を取る職員が多く、まず無理だろうとは思いつつ尋ねたところ、リーダーは私の代わりに妻が勤務するなどの工面をして一週間の休みを用意してくれました。ここでも奇跡をみさせて頂きました。

惜しむらくは、スイスに住む私は東京の兄に、死がすべての終わりではなく、永遠の命に繋がるという希望に満ちた福音をことばで十分伝えられなかったことです。同じ糖尿病を患っておられ今は亡き芳賀正先生も、人里離れた病院に入院していた兄を一日かけてお見舞い下さり、きっとイエス様のお話もしてくださったと信じていますが、イエス様の救いにまで導けなかったのは私の愛が足りなかったからと後悔しています。そんな折、ある姉妹からいただいたメールは、私にどれほど大きな慰めを与え、文章のなかに主の深い愛を感じたことでしょう。

貴兄のお心にあることをかいま見せてくださり、本当にありがとうございました。長年、非常な苦しみと痛みを耐えてこられたお兄様に、天のお父様は「もう十分に苦しんだよ」とご自身のふところにお迎えになられたのではないのでしょうか？

貴兄のお祈りと福音に従った生活は、福音を口で伝える以上にお兄様に語ってくれていたと思います。神様の愛と憐れみは、私たちの想像をはるかにこえています。罪だらけの醜い私たち人間には、神様の慈愛と憐れみの深さも大きさも到底考えられないのでしょうか。神様は人間とは全く異なっておられるという事実も。

愛するお兄様は、今この神様からどれほどの愛を受け、地上での堪え難い痛みも苦しきもすっかり忘れて、新しい天上のからで天国を自由に動き回っておられると想像します。神様ご自身がお兄様の顔から涙をぬぐってくださるのです。そして恐らく、お兄様は以前よりもっと貴兄に近くなられたとも思います。どうか慰めの主が、貴兄の心をご自身の慰めで満たし、その慰めで貴兄が、他の人を慰めることができますように。

SS

1、スイスJEGでは、第2回リーダーズセミナーを、クリシヨナ教会小ホールにて、3月10日午後から11日午後にかけて持ちました。そのなかでは、奉仕の在り方（簡素化と効率化）CSの奉仕、礼拝賛美、JEGのこれからなどをテーマに、それぞれが虚心坦懐に意見を出し合い、お互いの理解を深めることができました。教会員がそれぞれが遠隔地に住んでいるスイス教会では、意見を密に交換したり、祈り合う機会が得られないので、この様な機会を増やすことにし、次回は9月24日に開催されます。



2、スイス日本語福音キリスト教会の3月11日主日礼拝において、大石周平日本キリスト教会教師試補によって、「モーセよ、君は何者か？ゲールよ、君の主の御名は？」をテーマに説教通（訳は、クンツ・ルツ師）をしていただきました。この日の説教は、JEGのHPで聞ける他、説教原稿を日独両国語でお送り出来ますので、希望される方は松林までご一報下さい。

この日は、丁度一年前、東日本大震災が祖国を襲った、私たちが生涯忘れることのない日でした。この日の礼拝参加者63人が祖国のために取りなしの祈りを捧げるとともに、被災地で同胞支援のために必死で働くオアシスライフ・ケア利府教会 <http://oasislifecare.org/> ならびに東日本大震災救援キリスト者連絡会 (DRCnet) <http://drcnet.jp/201110/> のために特別献金が募られ1260フランの尊い献金が捧げられました。この献金は松林兄によって4月13日直接被災地に届けられる予定で、4月8日まで特別献金を受け付けています。

また、愛餐会のなかで、このたび帰国されたフィギリスター・サムエル宣教師が、大震災10日後に被災地に入って支援活動をされた時の現地の写真を見せながら、体験談をお話してくださいました。

3、ベルンに、ブルッカー・テレス元宣教師のイニシアチブによって再び家庭集会が始まりました！毎月第1、第3金曜日の14時から、FEG Bern、Zeughausstrasse 35/39で持たれます。4月は6日、ならびに20日ですので、ベルン近郊に住まわれる兄弟は是非ご参加ください。問い合わせはブルッカー・テレスBrugger Therese 師まで。 <[therese.brugger@bluewin.ch](mailto:therese.brugger@bluewin.ch)>

4、毎月、第4週目の午後2時から2時45分まで、入り口の右側にある会議室で、**祈りの会**を持っています。この時間帯に、どうかご自由にお入りになり、祈りの輪にお加わりになって下さい。心を一つにして愛する主に祈りを捧げたいと思います。お問い合わせはクスター節子師まで。Kuster Setsuko <[setsuko@hispeed.ch](mailto:setsuko@hispeed.ch)>



3月11日の／愛餐会のスナップから

5、シグリスト・ウルス兄は、結婚のため名古屋への引っ越しされ、5ヶ月間求職活動を続けてこられました。このたびドイツ系自動車部品会社の日本法人（東京）への就職が決まり、2月27日より仕事を始められました。当分、単身赴任生活をおくられますが、週末は必ず名古屋に戻られています。シグリスト美智子姉から近況報告が届いていますので、日出ずるコーナーにてお読み下さい。

6、3月11日（日）チューリヒ市 Gemeinschaftszentrum Riesbach <http://ja-jp.facebook.com/Recovery.Nippon.Project> で開かれた第3回リカバリー日本チャリティーバザーにスイスJEGからも2度目のブースを出しました。そのブースでのトムセン千香子姉の墨絵の実演は訪れた多くのスイス人の目を引き、カードとなった小作品は飛ぶ様に売れていきました。その他教会員の作品の売り上げも含めた売上金750フランは実行委員会を通じて日赤に義援金として送られました。当日は、フォン・プランタ美和子姉が販売を担当してくださいました。感謝。



7、南ドイツ・サウルガウからスイスJEGに通っておられた森崇一朗、藍子さんは、ドイツ桐蔭学園の閉校に伴い、横浜桐蔭学園へ転勤され、3月17日に帰国されました。日本での暮らしに早く馴染まれ、教会が見つかりますようお祈りします。

8、**スイスJEGの修養会**は、南ドイツSteinenで「神の家族のスマールグループ」をテーマに、ミラノから内村伸之牧師をお迎えして、6月8日（金）から10日まで開かれます。5月10日まで、伊今村葉子師までお申し込みください。また、オランダで開催される**第29回ヨーロッパ・キリスト者の集い**（8月2日から5日まで）への参加を希望される兄弟は4月25日までに、松林までお申し込み下さい。いずれも、主からの豊かな交わりと祝福が期待出来る修養会ですので、一人でも多くの兄弟が参加されますことを願っています。



9、4月12日から15日まで北イタリアの古都、ベルガモにあるSan Pellegrino Termeで世界各地から約70名の参加者を得てSLIMカンファレンツ [www.slimconference.org/](http://www.slimconference.org/)（大会会長内村伸之ミラノ賛美教会牧師、実行委員長立山仰ECCJ日本語教会牧師）が開催されます。昨年まで、欧州青年リトリートと呼ばれ若い世代を中心として英国に集まり、共に学び励まし支え合って参りましたが、今年は、名称と開催場所を替え、若きキリスト者が次世代リーダーとして、また次世代リーダーを育てる者たちとして主の前に集まり、共に聖書から学び、礼拝を捧げる時を持つとしております。この集会が主に喜ばれる捧げものとなりますようにお祈りください。

10、オーニンガー宣教師およびラシェンコ・ベラ宣教師からの Rundbrief、工藤篤子メールマガジン182号(Nickのこと)、吉村美穂NL61号、井野葉由美メールマガ85号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語教会月報、ケルンボン教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、パリ教会パルタージュが届いています。読みたい方、定期的にお受け取られたい兄弟は松林までお知らせください。



日出ずる国から



DRCnetで奉仕しています

東京はDRCnetの  
松下瑞子姉から

久しぶりにスイスJEGニュースレターに目を通しました。教会のactuaityを読めて幸いでした。

今朝も大きな地震がありました。震度5が茨城県、つくば市近辺で起こったのですが、東京も3程度で暫く続いたようです。昨年の余震との事で、これからも気をつけるように、とアナウンスしていました。昨日は雪が降ったり、日本は何時よりも厳しい冬を経験し、春の到来が待ちどしいです。

私は相変わらず、東日本大震災救援キリスト者連絡会（DRCnet）で奉仕しています。現地に行く事は殆どありませんが、救援団体と現地のニーズ（特に被災教会を中心として）に関する働きをつけています。



DRCnetとは、どのような働きをする団体なのか、どうぞそのホームページを時間がある

とき覗いてみて下さい。<http://drcnet.jp/201110/>

私は、英文のHPを一人でやっています。海外の友人達にも読んでもらうように努力しています。その中の説教支援プロジェクトに根田さんがいらしたので。ちなみに彼は確か、クリスチャン新聞の編集長を降りて他の方が編集長になっていると思いますが。

DRCnetは幾つかのプロジェクトを立ち上げて支援しています。次第に支援の団体が働きを閉じて行く中で、キリスト教の団体が集まったDRCnetは、後一年働きを続けることになりました。しかし、資金の面ではおおくの方々の献金を

必要としています。このことも覚えて下されば幸いです。

パリの日本人教会から東北で正月休みにボランティアを希望していらっしゃる方々があり、つなげることができました。その結果、パリの日本人教会が3月17日に計画している東日本復興支援チャリティーの準備に少々お手伝いする事ができました。

今年も8月にスイスへ行く計画をたてています。その時、スイスJEGをお訪ねする時間があればさいわいです。

主にあって！  
松下瑞子

[<mizuko.m822@gmail.com>](mailto:mizuko.m822@gmail.com)

子ども達に愛を持って

愛知県は名古屋市の  
シグリスト美智子姉から

スイス教会のみなさま、ご無沙汰しています。私は春休みに入りちょっと一息ついているところです。来年度からは名古屋市立の小学校で一年生の担任をします。教会学校の担当も小学一年生のクラスを持つことになっているので6歳～7歳の子もたちと一年を過ごすことになります。子どもたちに愛をもって仕えていくことができるように今から備えていきたいと思っています。

ウルスは東京で仕事が与えられ、週末だけ名古屋に戻ってきます。少し寂しいけれど、お互いの大切さがわかり、これもいいです。来年度は、私が関東に行くことになりそうです。

今年の夏休みこそ、スイスに行きたいと思っています！祝福を祈っています。

主にありて  
シグリスト美智子

[michikohiroe@hotmail.com](mailto:michikohiroe@hotmail.com)



ヨーロッパの

日本語教(集)会から

神様の憐れみを体験して

ノルウェーはブリーネ祈りの家の  
森よし姉から

ブリーネの森です。先日は震災特集のスイス教会ニュースレターをありがとうございました。震災の後にはいろんな人の人生が破壊されてしまったことをメディアを通して見聞しますが、仙台の若林区に住んでいる姉家族から思いがけない幸いな連絡を受け取りました。それは、震災を通して一緒に暮らす義母がイエス様を救い主として受け入れたという知らせです。

姉家族は同じ若林区でも町の中心に近い方なので被災を免れました。被害の大きかった荒浜の方に住んでおられたクリスチャンの大友さん御家族が、被災後、姉家族としばし一緒に暮らしていたのですが、その大震災直後の大混乱と苦難の中にあっても、主を信頼して生きている姿を目の当たりにしたが幸いしたのだと思います。

義兄から受け取ったメールにはこのように在りました。「ここに至ることができたのは神様の憐れみとしかいいようがありませんが、特に昨年の震災後に大友さんご家族との交わり・祈り会を継続してきたことが大きな影響を与えたと思っています。一切を津波によって流された大友家族のその後の生き方をみて、私もそうですが、母にとって信仰の尊さ、偉大さを実感したのだと思います。隔週に自宅での祈り会の会場となるのが母にとってはとても楽しみのおようです。」

神様のなさる事は何て素晴らしいのだらうと思いました。感謝ですよね。何十回と言葉を持って決心を促すよりも、生き方そのものが証になったのだと思います。ニュースレターの中の本園万子姉のお証にも同じような言葉が在りました。全てを益に変えてくださる神様を覚えませす。神様は人それぞれに何か賜物を与えてくださっているのですよね。自分の出来る事で主のご栄光のために用いてくださいと祈る者です。特に、責任のある集会の中で、先の姉の義母ではありませんが、クリスチャンの姿を通して救われる人が起こされる事を期待して、イエス様の愛を少しでも実践できたらと、心がドキドキするほど祈りの必要を覚えませす。

新しい聖霊の風

シュトゥットガルト日本語教会は  
増谷啓伝道師から

いつもすば  
らしい  
ニュースレ  
ターをあり  
がとうござ  
います。写  
真と映像、そ



して皆様の生き活きとした文章を、いつも楽しみながら拝読させていただいています。

また、私の神学の学びのことも気にかけていただきありがとうございます。2009年から始めたフラー神学校大学院のオンライン通信講座も、無事昨年未だに終了することが出来ました。アメリカの学期と同期した容赦のないスケジュールが組まれているため、出勤時に講義を聞いたり睡眠を削ったりしながら、毎日2時間以上を捻出して必死についていく3年間でした。

出張と重なって飛行機の中で期末レポートを書いたり、病気になって提出日を延期してもらったりと、神様の助けがなければ乗り切れないこともたくさんありました。



途中、三女の誕生という喜ばしい出来事があったので一年間の育児 休暇をとったのですが、「休暇」ではなく「24時間体力仕事」だということに今更ながら気づき、二期は「休学」するというハプニングもありました。

それでも休暇最後の1ヶ月は「育児休暇からの休暇」を妻からいただき、ドイツOMF宣教団で住込み実習生として奉仕させていただくという恵みもありました。

今までは年二回、シュトゥットガルト日本語教会で「神学生」として奨励をさせていただいておりましたが、先週末の総会で、今後は「(信徒)伝道師」として引き続き用いていただけることになりました。タイトルはどうか、これからはもっと実践的に教会の働きに携わらせていただけることを嬉しく思っています。

また喜ばしいことに、毎月一回だった礼拝に信徒主日礼拝を加えることになりました。この4月からは毎月二回礼拝に集うことができるようになり、教会員一同とても喜んでいきます。このタイミングで新しい聖霊の風をおこして下さった神様、そしてヨーロッパ全土&日本からもこのことを長らくお祈りいただいた皆様に感謝いたします。それでは、オランダでのキリスト者の集いでお会いできることを楽しみにしつつ。

在 主 増谷啓 <a83688@gmail.com>

一気に500年飛んで

バルセロナ日本語で聖書を読む会は  
下山由紀子姉から

スイスの皆様こんにちは。

そちらはまだ雪が降ることも時々あるようですが、こちらは20度を超える日が多くなり、ビーチに人が賑わっていて泳ぐ人も珍しくありません。逆に雨が降らないための水不足は悩ましく「砂漠化現象」という言葉が日増しに深刻さを増しています。人間の手ではどうにもできないこの問題の前には信仰を持たない者でも祈るしかなく、スペインのあちこちで雨乞いの祈りが捧げられています。神様はこれをどう見ておられるのか、天に思いを馳せてぎらぎらと輝く太陽を見つめる昨今です。



集会の方では、昨年まで続けていたダニエル書の研究を一端お休みにし、今年から新約聖書のルカ福音書を読み始めました。常に少人数のこの集まりですが、いつも必ず未信者の方がいらっしゃるのので、「その方たちのためにやはり福音書を読んだ方がいいでしょう」と複数の先生がたにお勧めいただいたからです。

こうして私たちは古代メソポタミアから一気に500年飛んでローマ帝国に支配されるイスラエルにやってきましたが、移り変わった時代の中に、やはり変わらず神様の強い導きがあるのを実感します。目には見えなくても人類史の隅々に神様の大きな存在を確認して、今も私たちを見守り導いてくださっている主の存在を感じながら、これからゆっくり福音書の学びを進めます。

いつか機会があったらスイスの方からも旅行がてら、集会に参加しに来てくださいね。まずはオランダでの再会を楽しみにしています。

下山由紀子  
yukikoshimoyama@gmail.com

チャリティーコンサートを開催

パリ日本語プロテスタント教会は  
山越純子姉から

今年一月、夫婦で石巻市やサマリタンズ・パース・メモリアルホール 渡波キリスト教会、南三陸町など被災地を訪れる機会を得ました。(詳細は、パリ教会発行のパートナーズ3月号をお読み下さい。)その縁で、パリ教会では、3月17日にチャリティーコンサートを開催し、賛美、また、私どもの石巻報告もフランス語でさせて頂く機会を得ました。

コンサートは 参加者106名を数え、無事開催され、義援金約1400ユーロ捧げることが出来ました。

